

### 第3回 品川区自殺対策連絡協議会（要約版）

1 日時：令和6年11月13日（水）10時00分～11時30分

2 場所：品川区議会（議会棟）6階 第一委員会室

3 出席者

徳丸委員長、阿部副委員長、檀上委員、須藤委員、小林委員、平湯委員、柳井委員

小川委員、岡戸委員、小清水委員、田代委員、横森委員、西村委員、江田委員、高柳委員

3 欠席者

田谷委員、山内委員、杉本委員

5. 議事次第

(1) 品川区自殺対策計画中間見直し（改定）素案 について

(2) 今後のスケジュール

(3) その他

#### 【配付資料】

- ・座席表
- ・品川区自殺対策計画中間改定 素案
- ・資料1 令和6年度 品川区自殺対策連絡協議会 名簿
- ・資料2 中間改定にあたっての主なポイント
- ・資料3 素案に係る意見等まとめ
- ・資料4 策定スケジュール

#### 【参考資料】

- ・参考資料1 品川区児童相談所開所について
- ・参考資料2 福祉計画課「あなたのいばしょ」について

## 6. 主な発言内容

### (1) 品川区自殺対策計画中間見直し（改定）素案 について

---

#### ①素案全体について

- 睡眠とうつについてのコラムが掲載されており、睡眠の効率や睡眠の質の重要性について触れられると良いと感じた。【東京都中部総合精神保健福祉センター】
- 品川区の地域特性を捉えた自殺対策計画になると更に良いものになると感じた。SDGs との関連部分は、本計画でも 11.5 の自殺死亡率にとどめるとの目標を示しており、自殺者はなかなかゼロにはできないものなので、「誰 1 人取り残さない」とはいかず、そこについて少し違和感がある。【大井消防署】
- グラフや表がうまく活用され、色分けもされておりとても見やすく、読みやすいと感じた。また所々にコラムが入っており、興味深く読めた。【民生委員・児童委員】
- 現場で感じていることと、自殺対策と言われていることの乖離がだんだん見えてきた。例えば、生活苦を抱えている人たち、重篤な精神疾患を抱える人たち、ヤングケアラーとか虐待を受けている人たちなどには目を向けられやすく、支援の手が入るきっかけがわかりやすいが、そういうところをすり抜けてしまいどこに関わるわけでもない、例えば恋愛な問題や個人的な問題を抱える人などへの支援が課題として残っているのではないかと感じた。【NPO 法人メンタルケア協議会】
- 計画と現場の差というのをどこまで詰められるかが課題であると感じた。また、人によって、なぜこんなことで自殺に追い込まれるのかと感じられる事でも、ナイーブな方にとっては非常に重たく感じられる事もあり、その個人の差をどこまで汲み取れるのかが大切であると思う。【健康推進部長】

#### ②自殺未遂者等への支援の強化について

- 計画の中で令和 5 年の自殺者は 65 名だが、自殺未遂者についてはその何倍もいる。今後は死にたいと思ったけれど死ねなかった、という方の分析もなお必要ではないかと考える。【品川警察署】
- 自殺をした方のうち、何らかの支援機関につながっていた割合を数値化した方が対策方法を検討する上で参考になるのではないかと考えた。飛び降りの自殺未遂者ケースでも、この以前にリストカット等の自殺未遂歴があった。最初の自殺未遂の段階で対策がうまくいっていれば、飛び降りを防げたのではないかと考えた。また、諸外国で自殺者の少ない国があれば、参考に出ることがあるのではないかと考えた。【荏原警察署】
- 自殺未遂者が自殺者となる前に救わなければいけない。死にたいけれど、まだ心が揺らいでいる、という方の自殺未遂の場面に多く直面する。その後の連携先として、病院には搬送せず、友達や両親に保護をしていただくことも多いが、その他にも品川区としての支援体制ができるのではないかと考えた。【荏原消防署】

#### ③関係団体等との連携強化について

- 本当は死にたくない、誰かに発信したい、そういう方に対しての品川区の窓口の連携がも

っと強化されれば、自殺者が減るのではないか。専門的な知識を持った人と連携し、何かあったらすぐ来てくれる等の体制をとれるといいと考える。【大崎警察署】

- 110番・119番の頻回要請者の中には、行って話をすると、安心して救急搬送の必要がなくなる方も一定数いる。そういう方を、相談先にうまく繋がれたら改善するのではないか。警察と消防と区、医療機関がもっと連携を強くしていく必要があると感じる。【品川消防署】
- ハローワークの労働行政の部分として、生きづらさを感じて死にたい、というような話が出た際に、個人情報の取り扱いの関係もあり、直接どこかに誘導することは難しく、厚生労働省で作成されている、「いのちの電話」のようなチラシをお配りするケースがある。品川区には、独自で相談できるチャットの窓口といったものがあるので、ハローワークの方でもより身近に相談できる機関がありますよと誘導することができ、品川区の取り組みは大変心強い。【品川公共職業安定所】

#### ④自殺対策を支える人材の確保・資質の向上

- ゲートキーパー研修について、広く区民の人たちに1人1人意識を持ってもらうということも大事だが、支援者側も意識変革をしていただいて、重篤な問題にばかり目を向けるのではなく、1人1人の心のひだというものに目を向けるような支援の仕方が必要だと感じる。普段、家族や友人、職場などの身近でも、大変な問題を抱えている人たちに目を向けるだけではなくて、日々のちょっとした心がけみたいなことがいかに大事かというゲートキーパー研修が必要だと思っている。【NPO法人メンタルケア協議会】
- 支援者支援について、スーパーバイズを進めていくなどの話があったが、大綱の中でも入っている重要な点であり、計画の中でも言及されても良いのではないかと感じた。【NPO法人OVA】
- ゲートキーパー研修が、シビアな相談に乗らなければいけない、という話ではないことを意識しながら、より皆さんに身近に感じてもらえるように広げていきたい。【健康推進部長】

#### ⑤勤務問題による自殺対策の更なる推進

- 長時間労働の是正は本当に必要なことで、長時間労働して、その方がうつ病等を発症して自殺するということは、特に大企業でそうしたことが起こると労災も認められ、新聞報道等にも掲載される。一方で、大企業以外のところにも、ブラック企業的なところはある。そうしたところの働き方改革をさらに進めていくことが、東京都も含めて必要かと考えている。【労働相談情報センター】

#### ⑥自死遺族等に対する支援の充実

- 自殺あるいは自殺未遂者の残された家族が大変苦勞しているという意見について、計画に反映され良い内容になったと感じた。今後も思い悩んでいる人たちを、それぞれの色々な専門的立ち位置から1人でも多く救えるような具体的な施策、あるいは取り組みを協力して実施していければいいと考える。【大井警察署】
- 支援機関の増加をどう捉えたらいいのか。区の主な取り組みの中で、関係機関が増えていくというイメージなのか。今後、協力いただく関係者をどのように増やしていくのか、というところが入ってくると良いのではないかと思う。また、素案全体の目標値に言えることだが、もう少し具体的な数値などが入ってきてもいいのではないかと感じた。【NPO法人OVA】

## (2) 今後のスケジュール

---

資料4、品川区自殺対策計画中間改定に係る確定スケジュールに基づき事務局より説明

委員より特に意見無し

## (3) その他

---

参考資料1：品川区児童相談所のパンフレットに基づき事務局より開設の説明

参考資料2：あなたの居場所のパンフレットに基づき、事務局より「NPO 法人あなたの居場所」と今年度7月に協定を締結し、24時間対応のチャット相談窓口が利用可能となったことを説明

- チャット相談というのは若年層にとっては非常に有効であろうかと思う。非常に敷居が低くて利用しやすいということがある。様々な人間関係がある中で、児童相談所が少しでも身近になって、その児童相談所を支援者が使いやすく、紹介できる、といった状況は大事だと感じる。【徳丸委員長】
- 地域によって様々サポートの状況とか、様々な違いがあり、そうしたところを一つ一つ、それが実行される、効力が発揮されるようにしていくという形でこそ、この計画というものに魂が入るということになると思う。【徳丸委員長】

(了)

令和6年度 品川区自殺対策連絡協議会名簿（敬称略）

職名	氏名
立正大学心理学部臨床心理学科准教授	徳丸 享
健康推進部長	阿部 敦子
東京都立中部総合精神保健福祉センター	檀上 園子
一般社団法人 品川区医師会	田谷 眞(欠席)
一般社団法人 荏原医師会	山内 健義(欠席)
品川警察署生活安全課長	須藤 正明
大崎警察署生活安全課長	小林 誠
大井警察署生活安全課長	平湯 達也
荏原警察署生活安全課長	柳井 香美
品川消防署警防課長	小川 利幸
大井消防署警防課長	岡戸 浩二
荏原消防署警防課長	小清水 雄二
品川公共職業安定所職業相談部長	田代 浩之
東京都労働相談情報センター大崎事務所長	横森 直樹
全国自死遺族総合支援センター(NPO法人グリーンフサポートリンク)代表	杉本 脩子(欠席)
特定非営利活動法人メンタルケア協議会理事	西村 由紀
特定非営利活動法人OVA	江田 暁子
民生委員・児童委員	高柳 陽子